

### (3) 防災マップ説明会

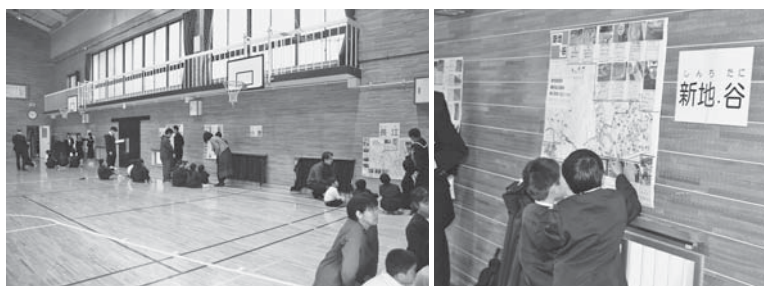
岩城中生徒が地区の防災士の方々の協力を得ながら作成した防災マップ。小学生はマップの作成に立ち会ってないこともあり、低学年児童など自分の住む地区の危険箇所や避難所等について十分に分からないのが現状である。そこで、中学生が小学生に教えたり説明したりすることで、家庭や地域において自分の身の安全を守ったり防災・減災につなげたりするための情報を共有する話合いの場を設けた。中学生は、現地を詳しく視察して知ったことや防災士の方々から学んだことを分かりやすく小学生に説明することで、防災に関する意識や考え方がより高まったようである。また、小学生は、自分が住む地域にどんな危険箇所があるか、どんな災害のおそれがあるか、もし災害が起きたらどのように避難すればよいかなど、具体的に学ぶことができた。今回は、地図上での確認だけであったが、2学期末の地区別奉仕作業時には、現地で今日学んだことを自分の目と足を使って確認していく予定である。



〈危険箇所を確認する防災士と生徒たちの様子〉



〈防災マップで地区の危険箇所を教える様子〉



〈地区別で情報交換をする様子〉 〈マップで自宅を確認する様子〉

## 4 学校・地域防災普及活動

### (1) 上島町学校防災教育実践委員会

本委員会は、上島町の小中学校の防災対策が円滑に行われるよう、諸問題の解決について指導・助言を行うために設置された。また、小中学校、PTA、地域住民、危機管理室及び警察等が連携して、防災環境の現状の把握及び地域の実態に即して防災活動を効果的に行うために必要な安全対策を協議、検討する機能をもつ。委員会は、次のような日程・内容で開催された。

第1回目	7月17日(水)	事業説明や町内各校の防災計画の協議・検討
第2回目	10月28日(月)	南三陸町現地・先進校視察報告 岩城小・中学校取組の中間検討
第3回目	12月6日(金)	愛媛県・上島町で起こりうる災害への対応

委員会での話合いでは、学校防災アドバイザーである愛媛大学准教授である二神透先生をはじめ、参加者の方々から貴重なご指導・ご助言をいただき、今後の取組や各機関との連携を検討する有意義な場となった。



〈実践委員会での話合いの様子〉

(2) 越智郡（上島町）PTA研究大会

8月24日には、『地域コミュニティを大切にした「生きる力」を育む防災教育』を主題として、越智郡（上島町）PTA研究大会が開催された。上島町役場総務課危機管理室、田房良和室長から上島町の防災対策についてご講演があり、昨年度の西日本豪雨災害に関わる上島町の事業内容の概要が説明された。その後、上島町内の保護者を対象に行われた防災アンケートから見える課題について、岩城中学校PTAから説明があり、「西日本豪雨災害を経験して、家庭や地域でどのような備えや協力体制が必要であると感じたか」という課題が提起され、分科会で話し合われた。分散会後半では、グループワークとして「避難所運営ゲーム（HUG）」を行った。

(3) 先進校視察研修

8月27日に、岩城小・中学校から各1名が、防災教育先進校視察として南三陸町を訪問した。被災者講話や浸水エリア視察、歌津中学校の防災教育の取組などについて研修を行い、その内容を各校で報告し、全教職員で共有した。自然災害の脅威や復興に向けての被災地の前向きな取組、戸倉小学校の震災発生時の取組などに学ぶことができた。

また、南三陸町立歌津中学校では、次に起こる震災を想定し、子どもたちが生き抜くための防災教育を推進し、人間力の育成や地域力の向上に努めていた。私たちも、いつ、どこで想定外のことが起こり得るか分からないことを自覚し、様々な事例を参考に研修を積み重ね、迅速に状況判断ができなければならない。先進校視察で学んだことを今後の取組に生かし、教職員で防災教育に対する意識を高めていきたい。



〈戸倉小学校「第2避難場所の検討と災害時の行動」〉

<p>研修② 14:00 南三陸町立歌津中学校の先進校視察</p> <p>避難所</p> <p>教師にとって最悪の状況を考えて 防災教育を推進しましょう。</p> <p>講師 主幹教諭 佐藤 公治 先生</p>	<p>津波の恐怖を想起させる教育</p> <p>地域に視点をおいた 体験的な防災教育</p> <p>↓</p> <p>被災後の避難所運営 (自らの命を守り、発災を生き抜く)</p> <p>↓</p> <p>生徒たちの将来の命を守る</p> <p>歌津中学校の取組</p>	<p>「避難所運営訓練」を核とした防災教育 ～総合な学習の時間を活用～</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>少年防災クラブ発足式及び規律訓練 (5月)</li> <li>学年ローテーション訓練(6月)             <ul style="list-style-type: none"> <li>A 救急救命法訓練 [3時間]</li> <li>B 応急処置法、傷病者搬送訓練</li> <li>C がれき撤去、火焚き、穴掘り訓練</li> </ul> </li> <li>炊き出し訓練(7月)</li> <li>避難所運営訓練(10月)</li> </ol> <p>歌津中学校の取組</p>
---	---	---

〈歌津中学校『「避難所運営訓練」を核とした防災教育の取組』〉

#### (4) 防災参観日

##### ア 小学校

###### (ア) 防災学習発表会

1月20日の参観日には、これまで防災について各教科等で学習してきたことを学習発表会として保護者や地域の方々に紹介した。1年生は「じしんからみをまもろう」というテーマで発表した。学校にいる時に地震が起きたらどんな行動をとるかを身振りや動作を交えて楽しく表現した。頭を押さえた低くうずくまる姿勢「ダンゴムシのポーズ」は、先日行った予告なし避難訓練の時にもさっと実践できていた。2年生は「防火戸のひみつ・はたらき」を、3年生は「防災絵文字の紹介」を、それぞれクイズや作文を交えて発表した。4年生は社会科で「地震からくらしを守る」という学習があり、地域や上島町全体の取組についても具体的に紹介した。5年生は「災害が起こる前の備え」に焦点を当て、非常用持ち出し袋と中身の品を紹介して、家庭でも備えておくことを呼び掛けた。6年生は、劇やクイズを交え5年生までの内容を総括する発表を行った。そして、学習発表会のテーマ『みんなで守ろう大切な命』につながる「顔の見える関係づくり」を進めることの大切さを、地域の方々や保護者、会場内の人々へ向けて呼び掛けた。



〈学習の成果を発表する様子〉

###### (イ) 防災学習セミナー(東日本大震災被災者による講演)

発表会の後、講演会を行った。福島県南相馬市観光ボランティアガイドをされている岩橋光善さんを講師に迎え「人と人がつなぐ支援～災害時の人権を考える～」という演題だった。躊躇なく早めの避難をする、自分がいなければ人の命は助けられない、地域に人がなければ地域に復興はない、など東日本大震災の経験に基づく深い話を聞くことができた。そして、人がつなぐ支援とはどのようなことかを、それぞれの立場から考える示唆を与えてもらうことができた。



〈岩橋氏の講演に聞き入る参加者の様子〉

##### イ 中学校

###### (ア) 1年生参観授業：総合的な学習の時間「地震に備える」

自宅にいる時や通学中に地震が起こった場合の危険を予測し、事前にできる安全対策や避難行動について考えた。生徒達は、「家具が倒れてくるから、耐震金具で固定する」や「ガラスが落ちて割れるから、飛散防止フィルムを貼る」、「ブロック塀や電柱が倒れるから、離れた場所で身を守る姿勢をとる」など、「落ちてくるもの」や「倒れてくるもの」の危険を予測し、対策や避難行動を考えることはできた。しかし、「キャスターの付いた棚が動く」といった「移動してくるもの」の危険性については気が付くことができなかった。普段から身の回りのもの



に注目して生活し、自宅や通学路に潜む「危険」を予測する力を付けることが必要であると感じた。

「緊急地震速報」の仕組みやどのような場合に発表されるかについて学習し、大きな揺れが来るまでの間にできる行動について考えた。生徒は、「机の下にもぐる」や「窓ガラスや棚から離れて、頭を守って低くなる」などの避難行動を具体的に想像することができた。さらに、「近くに机が無かったら?」「ガスバーナーを使っていたら?」「古い建物の中の場合はどうする?」などの追加質問を行い、状況に応じた適切な避難行動について考えを深めた。

災害に備えて「非常用持ち出し袋」の中身を考えた。生徒は、友だちの袋の中身や理由を聞くことで、人や家族構成、ペットの有無によって必要なものが異なることを実感し、事前に家族で相談し、準備しておくことの必要性に改めて気付くことができた。

また、何よりも命が大切であり、災害時における家族との連絡の取り方や避難所などについて、事前に家庭で話し合っておくことが大切であることを確認した。参観日の授業で行ったため、生徒と一緒に持ち出し袋の中身を考える保護者や、帰宅してから災害への備えについて話題に上った家庭も見られた。



〈非常袋の中身を考える様子〉



〈選んだ理由を発表する様子〉

#### (イ) 2年生参観授業：総合的な学習の時間「避難所運営ゲーム（HUG）」

小グループに分かれて、「避難所運営ゲーム（HUG）」を行った。避難所に見立てた紙に、様々な事情を抱えた避難者のカードを配置していく。参観者も自由に参加できるように後方に予備のゲームを用意していたので、興味深そうに生徒の様子を見ながら、保護者や地域の方も一緒になって自発的にゲームを行っていた。大人ならではの意見もたくさん挙がり、その意見を参考にしながら生徒たちも自分たちの考えを見直すなど、活発な意見交換の場となり、新たな気付きもあったようである。生徒の話合いに参加してくれる保護者や地域の方もおり、様々な人の立場に立って考える大切さを実感できた。



〈参観者も交えてゲームを行う様子〉

#### (ウ) 3年生参観授業：総合的な学習の時間「救援物資を運べ！」

災害時にボランティアチームが救援物資を備蓄倉庫から避難所へ運ぶという設定で、4～5名のグループに分かれ、協力していかに早く救援物資を運ぶことができるかを考える活動を行った。救援物資に見立てて、輪ゴム30本・ビー玉30個・クリップ75個・ペットボトルキャップ6個を用意し、ストロー1本・ひも1本・紙1枚・割りばし1膳・つまようじ1本・マグネット1個を使って救援物資を運ぶ。手で直接救援物資に触れることはできず、全てを運び終えるまでの時間を競った。

今回の授業は、「災害時に必要な5つのスキル」を学ぶことが目的である。「災害時に必要な5つのスキル」とは、「①コミュニケーション」「②状況認識」「③リーダーシップ（チームづくり）」